令和 7 年度

第 14 回 和光市地域公共交通会議

（1）開催概要

■ 日　　時 :令和 7 年 2 月 10 日（月） 15:00～

■ 場　　所 :和光市民文化センター企画展示室

■ 出 席 者 : ［和光市地域公共交通会議委員］ 出席 25 名

［事務局］ 3 名

都市整備部　入谷審議監

公共交通政策室:田中室長、黒田室長補佐、市川主査

［傍聴］ 5 名

（2）会議の概要

1.　開会

2.　挨拶（柴崎市長）

こんにちは、和光市長の柴崎です。本日は大変お忙しい中、第 14 回の和光市地域公共交通会議にご出席頂きまして、どうもありがとうございます。

皆様におかれましては、日ごろから和光市の公共交通に関しまして多大なるご尽力を頂きまして、どうもありがとうございます。また、新たに和光市の地域公共会議にご就任されました皆様、心から歓迎致します。どうぞよろしくお願い致します。

当市では、去年の市内循環バスの見直しから 1 年が経ちまして、利用者も少しずつ増えてきております。これまでの取り組みを基にして、地域公共交通の計画を見直し、より良いサービスの提供を目指しております。本日は、和光市地域公共交通会議会長の選定、和光市地域公共交通計画の中間評価、そして当該計画の見直しについてご審議頂きたいと思います。

まずは、事務局から説明をさせて頂きまして、この後ご意見を伺いまして、ご承認頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

3.　議 事

①　和光市地域公共交通会議会長の選定

推薦により、吉田委員が会長として選定された。

吉田会長の指名により、香取委員が副会長として選定された。

会長

改めまして会長に選任されました吉田でございます。よろしくお願い致します。

循環バスわこばについて、ダイヤ改正から丸 1 年が経過しましたが、利用者数は増加しており、収入に関しても、おそらく数割増しという状況で、実績としてはかなり順調と言えるかと思います。一方で、今まで高い頻度でお使いになっていた高齢者の方は、やはり利用頻度が減

ったというようなご意見や、今まで直通で行けていた所へ行けなくなった、というような話もありました。後は、IC カードの読み取りに時間がかかるという点については、6 月の協議会の中でも確認をしまして、今後対応頂けるなど、いくつか課題が出てきている状況です。限られた資源の中で、どのような形で利便性を担保していくのかという所を、引き続き皆さんと考えて一緒に考えていかなければいけない、という事もありますし、その他には、自動運転の実証や、交通弱者と言われる方々について、坂道や細い道などが点在する中において、どうやって移動しやすさを担保していくのかなどについても、引き続き考えていかなければいけないという風に思っております。

今回からご参加頂いている方も多々いらっしゃいますけれども、様々な観点から活発に動いてるというのが、これまでの本会の良さであり、沢山の方に傍聴頂いている点も、私が関わっている協議会の中では非常に珍しい点ですので、その良さを継続しつつ、引き続き良いものを皆さんと一緒に作っていく事が出来れば、という風に思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

② 和光市地域公共交通計画の中間報告について

会長

協議の前に、前回の協議会から半年ほど時間が空いているので、まずは現在の状況を把握する必要がある。報告事項（２）について、事務局から説明をお願いできないか。

事務局

承知した。

・報告事項②和光市地域公共交通計画の中間評価について、報告資料２を基に事務局より説明

会長

前提として、前回の結果と比べると回収数が少なく、限られたサンプルになってしまっているので、単純に比較するのは難しいように思う。その上で 9 ページの通り、利用頻度が若干減っているのは、高い頻度の利用者が利用頻度を減らしたり、運賃の値上げなど金銭的な要因で減っている可能性もあることから、検証が必要ではないかと思う。

また、13 ページの乗降のしやすさに関する満足度について、和光輸送の小型車両による運行であることを踏まえて、利用者数が増えてきている中で車内の様子がどうなっているのか、という点も気になる。

車内の状況について、運行事業者の方で何かお客様から頂くご意見や課題と感じられる事はあるか。

委員

マイクロ運行の方は、前乗り・前降りなので乗降に時間がかかるという懸念がある。また、ワゴン車を使用しているのでベビーカーや買い物用のカートなどを置く場所がないといった

ご意見は結構頂いている。

会長

各便にどのぐらいの人数が乗っているのか、席に比較的余裕がある状況なのかという点について、利用者数が増えていく傾向や、使用している車両が、従来和光市でお願いしている車両と異なっている点を踏まえて、注視が必要だと感じる。東武バスの方では、何か伺っている意見はないか。

委員

直接意見として頂いてはいないが、引き続き、ご利用しやすいお客様対応等に注力していきたい。

会長

運行事業者へ対応をお願いしないといけない点と、市や議会の皆さんと一緒に考えなければならない部分もあるかと思うので、引き続き対応をお願いしたい。

事務局

資料１を基に説明

会長

2 ページ目の循環バス利用者数の推移について、昨年 12 月までで 12 万 6,544 人であったことを踏まえると、4 月～12 月までの 9 ヶ月で 16 万 9 千人、来年度末時点での目標値は 18 万 1 千人とだが、令和 2 年の 11 万人、あるいは令和 5 年の 12 万 4 千人から考えてみると、利用者は増えている事が確認出来るかと思う。

また、2 月までの運賃収入が 1,527 万 3,759 円と、2 ページの下から 2 行目に書かれてあるが、これを同じく 9 分の 12 にすると 2,036 万円になるので、去年の 1,015 万円に比べるとほぼ倍という事になる。経費が多少変わっているので、単純に言えないが、経費と同じくらいであれば収支率 25%くらいにはなるので、利用者数と収支の状況については、計画に近い状況で進んでいると思う。

確認だが、4 ページの評価指標③について、現況値と目標値が評価指標②の内容が記載されていると思うので、修正をお願いしたい。

事務局

満足度について、達成状況に関しては、次年度実施予定の市民アンケート結果を反映していく。評価指標③の市民満足度については、この場を借りて訂正し、お詫び申し上げる。現況値が 29.4%、目標値が 40%である。

委員

5 点、お伺いしたい。まず、アンケート結果の中で、時間帯の不満、本数の不満という意見

が特に目立っているが、利用者数増加傾向にある中で、運行時間、本数や時間帯の見直しについてどう考えるか。

次いで、向山・午房コースの回答者の満足度が高いことの要因が分かれば教えていただきたい。オープンデータの活用について、実際にそれを使うことによって、交通機関を利用する人にどのような効果があるのか伺いたい。

また、ラストワンマイルモビリティというのは、荷物の配送など、運輸業界に係るワードという認識なのだが、用語の使い方について伺いたい。

加えて、MaaS アプリのポータルサイトについて、利用者というのはどのような人を対象としているのか。

最後に、多様性のある交通機関の連携について、全体をどのようにコントロールするのかというのも重要かと思う。全体の交通機関を統括するような組織の設置について、何か検討されているものはないか。

事務局

まず、アンケート結果での満足度の要因については、運行本数が増えたことや、目的地までの移動時間が比較的短縮された停留所もあるので、そちらで満足して頂いている方もいらっしゃるのではと思う。一方で向山・午房コースでも、ルートが分かりづらいという点や、利用機会と対応しない点が不便、といったご意見も頂いている。時間帯、本数が不満であるという声が多い一方で利用者が増えた要因としては、バス路線や運行本数が増えたという点は大きいかなというところと、妊婦さんへの新たな制度の設置などにより、お子さんの健診などにも利用して頂いている。加えて、市民まつりや市内でのイベントでアピールをしているので、そういった施策の効果もあるかと認識している。

オープンデータについて、効果として分かりやすい例では、Google マップに反映させて、例えば、「和光市駅から和光市役所に行きたい」といった検索に対して、これまで路線バスの経路しか出なかったところに、循環バスの経路も反映される様になるなどがある。今後はさらなる活用に向けて、どこにバスがいるのか、いつ頃来るのかといった情報提供手段の導入についても、検討していきたい。

ラストワンマイルモビリティについては、交通課題の一つとして、最寄りのバス停から自宅などに歩いていくのは大変といった点があり、こういった短距離移動の課題への対応策としてラストワンマイルとして、今回の計画では記載しているた。

ポータルサイトについては、市内の公共交通を利用したい方や、市内にどういった公共交通手段があるかを 1 つのページで確認できるように集約したホームページを作成した。これにより、今までは路線バスしかイメージがなかった方が、循環バスやタクシー、シェアサイクルなどについても 1 つのページで把握できるような形になっている。

最後に、多様性のある連携に関して、実際どのような組織により対応していくかについては、引き続き検討が必要。公共交通会議や、交通事業者により実施している事業者部会等で、意見交換や出来ることなどの精査を進めながら、そういった組織や段取りが必要であるとなれば、これについても議論をしながら進めていく事になると考えている。

会長

利用者が増えた事については、ダイヤ改正により 3 路線が 5 路線になって、それに伴い本数もそれぞれ少しずつ増えた影響というのが一番の要因かと思う。東北などの地方部では、供給量が増えてもお客さんが増える様子があまり無いが、こういった結果が出るのは都市部ならではという印象をすごく受けた。

また、ラストワンマイルモビリティは、いろんな見方、見え方があるので、ラストワンマイルモビリティいうのが何を意味するのか、というのが人によって様々であることから、使い方に注意すべき言葉だと思う。

ポータルサイトは、当該ホームページにはポータルサイトという言葉はほとんど出ず、言葉の認識が非常に薄い。ただ、全部の交通モードがこのページを見れば調べられるという点で、他の自治体だと、バスとシェアサイクルを乗り継ぐのに、それぞれ全く別の場所で情報を得なければいけないところが、一つのサイトにまとまっている、というのはすごく良いので、より分かりやすい表現にすると良いと思う。

委員

市内循環バスでは、現在の超高齢化社会の中で、運転手不足が非常に顕著であるため、市内循環バスの撤退も考えられるといったお話を伺った。結果として、関係各所との相談や、新たな社員の採用により、運転手の確保が出来たという事になったが、今後の路線バスについて、やはり公共交通の運転手不足という事実はおそらく変わる事はなく、どんどん厳しい状況になると思う。その為、充実を図るに越したことはないが、現行の体制を維持するというのも、和光市では非常に厳しいという状況も、しっかりと共有する必要性があるのかなと思う。引き続き路線の減便や廃止、運転手不足等のお話がある所に関しては、引き続き協議・検討を行って頂ければと思う。

会長

今後、調整を余儀なくされることもあるかと思うので、この協議会や事業者部会などを上手く活用して頂いて、早め早めに対策する事が出来ればと思う。また、国土交通省より、既存交通にて事業者が撤退する場合や、大幅な減便を伴うケースにて、金銭面での補助を受けることが出来る制度があり、県内では飯能市が、実際にそれを使った事もある。国の方で用意しているもので、あまり活用例が無い制度ではあるが、有効に使っていけると良いと思う。

委員

埼玉病院へ移動した際に乗換案内を使用したが、同じバス停なのに、和光郵便局と和光郵便局前というような似た名称の停留所については、どちらか片方しか出てこない、といった部分を修正出来たら良いと思う。併せて、埼玉病院や郵便局あるいは和光市駅方面については、東武バスは 20 分間隔、市内循環バスは 40 分間隔で、不均等になっているので、統一的なダイヤを組むことは出来ないか。

事務局

バス停名の件は、民間のバス事業者の方との兼ね合いもあるため、適宜相談・協議していきたい。

ダイヤに関しては、循環バスが各路線1台で運行しており、休憩時間等の兼ね合いでダイヤを組んでいくと、今のダイヤになってしまう部分がある。埼玉病院への運行区間については、朝の受付に間に合うようにするなども踏まえてダイヤを組む中で、一部東武バスと重複してしまう時間帯が発生している。そこに関しては、効率の部分があるので、民間のバスと循環バス等でうまく調整をしつつ、連携できるような形と体制を組んで、さらにダイヤが重複している時間帯を分散出来ればと思う。

一方で、重複路線も課題となっている。民間のバス路線がある所は東武バス等の民間事業者にお任せして、それでカバー出来ない所を循環バスで、という様なネットワークの検討が必要。運行経路やダイヤの検討にあたり、民間路線バスと循環バスが、それぞれ兼ね合うような形での修正になってくるかと思う。

委員

当初の計画では、短期の毎年の PDCA サイクルと長期の PDCA サイクルという形で作られているが、今回の資料では短期・長期どちらのサイクルを提示しているのか伺いたい。

事務局

今回の内容は、5か年の計画の内の約2年半という所で、長期的な PDCA サイクルの中間評価について示している。

委員

中々短期的に評価するのは難しいとあるように思うが、どう思うか。

事務局

短期的な評価について、1年ずつ検証するというところで、評価が難しい部分もあるが、公共交通計画というものを作った以上、現況値を見ていくというのは必要になると思う。定期的に短期的な内容を皆さんに判断してもらうための資料は必要であると考えているので、今後準備していきたい。

会長

全体の数値が出ているところについては、何年度や何年何月と書いてあり、どの時点での積み上げなのか分かるが、6ページから8ページのこれまでに積み上げてきたものの累積に対して A～C 等で評価を付けていると思うが、何年何月の時点でその結果になっているのか記す方が良いと思う。

事務局

6ページ以降に関しても、参考数値は令和7年2月時点である。

委員

4ページの情報提供等の整備箇所数について、なかなか一朝一夕で設置できるものではないが、具体的に設置を計画・検討している点があるのかという点と、5ページのモビリティマネジメント実施回数に係る部分について、詳細を伺いたい。

事務局

4ページの整備箇所については、和光市役所のバス停や埼玉病院を検討していた。具体的にどういった場所で整備するのが適切か、検討している段階である。

モビリティマネジメント関連の施策については、市民まつり等の市内イベントにおいて、企画人権課がスーパーシティプロジェクトに係る PR と連携して、「循環バスはどういった所を走っているでしょう」といった内容をクイズ形式で提示する取組みを、お子さんを対象に行ったりしている。その中で、当初は市民の皆様も関心が無かったが、1年くらい経つと徐々に覚えて下さったり、関心を持って下さる方が増えたと感じる。また、令和6年11月の市民まつりでは自動運転サービスの実証実験で運行される車両を展示して、実際にこういった車両が走る予定です、とバスに乗ってもらったり、実際に身近に感じてもらったりするような取り組みを行い、数多くの方に来て頂いた。

委員

MaaS アプリの構築導入は難しいと思う。他自治体でも検討しているようだが、果たして必要としている方がどのくらいいるのか、和光市外からの利用者について、市内のみを対象としたアプリ導入の必要性や、新たな決済手段が普及した際の対応など、十分に精査していかなければいけないと思う。新たな決済手段をバスの対象車種すべてに取り入れることは、事業者の負担が大きく、非常に厳しい。また、現在ほとんどの方が PASMO・Suica を利用しており、現金の方はおおよそ1割程度である。これを踏まえて、現金を無くして運行するならまだしも、現金での支払いと併用して導入するのは、民間事業者からしたら厳しくなりつつある。

和光市駅南口のバス乗り場のベンチについて、高齢者やバス待ちの方にとって、非常に重要である事は理解しているが、事業者側からの立場からすると、バス停留所のベンチは常時誰かが監視している訳でもないので、劣化や破損、また汚れた場合などの維持管理という点では対応が難しい。特に、夜中などにベンチを汚され、その後お客さんが座って洋服が汚されたとバス事業者にご意見を頂くといった問題の原因となっている。

あとは利用者目線で、ベンチに座っている人が先か、バス停のポールの前に立っている人が先か、という議論がある。バス停によっては、離れた場所にベンチがあり、高齢者の方がだいぶ前から待っていて、バス停の前では健常者の方が並んでいて、乗車時にトラブルになった事があった。ベンチの設置位置についても、こういった現状を踏まえた上で検討していただきたい。

自治体単位でのノンステップバス導入補助金はありがたい反面、和光市内だけ走らせないといけないため、運用が難しい。一方で、バス停の名称の統一といった施策であれば、和光市内で完結するのでありがたい。

最後に、東京都で発行しているシルバーパスは有料である。無料という認識が広まってしまうと違う方向に進んでいってしまうので、留意していただきたい。

事務局

MaaS アプリに関しては、市外からの利用や市外への利用、乗り換えなど、市内単独での実施が難しい点が課題なので、すぐ動くというよりも、精査していく必要がある。また、停留所のベンチに関しては、事業者の担当部署や、現地の関係者との調整も必要なので、適宜相談する。最後に、シルバーパスは情報の出し方を注意するようにする。

会長

それでは、資料 1 の 4 ページ市民満足度の数値の修正と、6 ページ以降の ABC 評価について、令和 7 年 1 月末時点での評価という点を踏まえて、本議題についてはこの内容で承認としてよいか。

・全会一致にて承認

③　和光市地域公共交通計画の見直しについて

・資料 2 を基に事務局より説明

会長

今回、2 カ年分のスケジュールを示してもらった。循環バスわこばについては、市民研究会の方々との様々な議論を経て今の運行になっているところがある為、今後も一緒に見直したり、話したりする必要がある。

市民インタビューが令和 8 年に入っているが、市民研究会とは別で実施するのか。

事務局

前回の計画策定をした際に、いくつか自治会にお声がけをして、グループインタビューを行った。今回も、そういった取り組みをイメージしている。

委員

市民アンケートについては、令和 7 年度の総合振興計画の中間見直しにも重なる思うが、これと連動した形でのアンケートになるのか。別途実施するのか。

事務局

単独での実施を予定している。

会長

それでは、本議題について、この内容で承認としてよいか。なお、協議機会の開催回数等は適宜調整が必要かと思うので、進めていく中で随時対応していく想定とする。

・全会一致にて承認

４．事務局より報告事項

① 株式会社和光輸送の実証走行継続及び現状の課題等について
② 和光市内循環バス利用者アンケートの実施結果について
③ 自動運転バスの 2 期社会実証及び令和 7 年度以降の事業予定について
④ 交通弱者支援施策の検討について

委員

報告③で、バスの自動運転について、システムの信頼性や、既存システムとの協調性について伺いたい。

事務局

信頼性について、今回２箇所で車両システムを構築して実証実験を行ったが、実際に約 95%と比較的高い信頼性が得られた。その場で出た情報もバスに送られて、その情報に基づいてシステム上で減速や停止を行っていくような形になる。一方で、今後の課題においては、データに数%差があったのでその部分の改善が必要。

５．閉会

事務局

次回の公共交通会議は令和 7 年 6 月ごろを予定している。詳細な日程については、決まり次第ご連絡する。

以上